

科目名	政治学演習			ナンバリング	RPP351	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	阿部慶徳	担当教員					

授業の概要	本講義では、学生が政治学の基本的教養を身に付けることを目的とする。政治制度と政治学の理論について、実際の欧米と日本の制度に即して学習する。 まず、社会科学としての政治学について、その方法論を学ぶ。 次に、政治制度とその理論を学習する。政治制度の理解を踏まえて、政治学上の重要なテーマを学習する。「政治学入門」「政治学」で学んだ内容を復習した上で、実際の公務員試験の問題を解いていく。						
到達目標	1. 政治制度及び政治学について基本的な知識を身に付ける。 2. 受講者が自分なりの視点で政治現象を理解できるようになる。 3. 公務員試験に合格できるだけの知識を身に付ける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	【勉強方法】1. 授業前に、テキストの次回授業の該当箇所を熟読する。 2. 授業内での説明、自分で調べたことを配布したレジュメに書き込む。 3. 書き込みをしたレジュメと、テキストを熟読する。 【事前に履修しておくことが望ましい科目】政治学入門、政治学 【履修する上で求められる知識】中学・高校で学んだ公民の知識、政治学の基礎知識						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 政治学におけるキーワードについて説明できる。 2. 政治学に関する社会現象と、それに関連するキーワードを結びつけて、考えることができる。	1. 政治学のキーワード間の関係を理解した上で、概説することができる。 2. 政治学のキーワードを使用して、社会的事象を説明できる。 3. 学んだ政治学の知識を使って、公務員試験の問題を解くことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
中間確認テスト	○	○					35%
最終確認テスト	○	○					35%

課題、評価のフィードバック	1.毎回の小テストは、次授業の冒頭で解説を行う。
---------------	--------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス 政治学の基礎	講義全体の流れの説明。 社会科学としての政治学の基本的考え方を説明し、 講義の全体像を把握してもらう。	
	第2回	政治制度(1) 議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の原則と特徴について解説し、具体例として イギリスの政治制度、アメリカの政治制度について、論点整理と復習を した上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第3回	政治制度(2) 議会政治の理論と各国の政治制度	議会政治の理論として「アリーナ型議会」と「変換型議会」について、 論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、 解説する。	
	第4回	選挙制度(1) 選挙制度の基本	選挙制度の基本的知識として、小選挙区制、大選挙区制、比例代表制について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第5回	選挙制度(2) 各国の選挙制度	日本の選挙制度の概要、各国(アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス)の 大統領選挙・上院議員選挙・下院議員選挙について、論点整理と復習を した上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第6回	政党	政党の定義、ウェーバーによる政党の発展段階などの政党に関する学説について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第7回	中間まとめ－第1回～第6回までのまとめ	第1回から第6回までの復習・要点整理を行う。 第1回から第6回までの理解度の確認試験を行う。	
	第8回	圧力団体(1)概論	圧力団体の概論として、圧力団体の定義、圧力団体の類型について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第9回	圧力団体(2)各論	圧力団体の各論として、日本の圧力活動の特徴、圧力団体政治の具体例について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第10回	世論と政治(1) マスメディアと政治意識論	マスメディアの機能、疑似環境とステレオタイプ、マスメディアの影響力について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第11回	世論と政治(2) 政治意識論と投票行動論	政治的無関心、アーモンドとヴァーバによる政治文化の類型化、投票行動について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第12回	政治思想(1) 政治思想の類型と社会契約論	社会契約論、権力分立について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第13回	政治思想(2) 自由主義	功利主義と自由主義の学説について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第14回	現代政治理論	コーンハウザーによる社会の4類型など現代政治理論について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第15回	最終まとめ－第8回～第14回までのまとめ	第8回から第14回までの復習・要点整理を行う。 第8回から第14回までの理解度の確認試験を行う。	
	試験	定期テストは実施しない。		
授業の進め方		授業内では講義と質疑応答という形で進める。 講義後にはその日の講義について理解度を図る小テスト(参照一切不可)を実施する。 (約10分程度)		
授業外学習の指示		授業前にテキストの次回授業の該当箇所を熟読すること。授業後は、配布資料を中心に講義の内容を復習する。 不明点は教科書や、manab@にアップしたコメントカードへの返事を読む等をして、不明点を解消すること。 関連する公務員試験の問題を解いてみることもお勧めする。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	資格試験研究会編(2018)『新スーパー過去問ゼミ5 政治学』実務教育出版1,944円。
参考書	淵元哲(2013)「淵元哲の政治学まるごと講義生中継 第2版」TAC出版 1,728円。
参考URLなど	なし。
その他	連絡や資料の配付等にはmanab@IMUを使用するので、各自設定をすること。 公務員試験受験者を対象とする。「政治学入門」「地域公共政策の基礎」「政治学」を修了していることが前提である。 受講態度:「質問・発言・発表」は加点、「授業妨害行為」は減点となる。

演習内テスト・ルーブリック

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	小テスト	正答率100%	正答率50%以上100%未満	正答率50%未満。
2	中間確認テスト	正答率90%以上	正答率60%以上90%未満	正答率60%未満。
3	最終確認テスト	正答率90%以上	正答率60%以上90%未満	正答率60%未満。
4				
5				
6				
7				